

| | | | |
|--|------------------------------------|--|---|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-1N-Lg2 授業科目名 (時間割コード:045101) 中国語Ⅰ(1)Ⅰ ChineseⅠ ChineseⅠ | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 前期水2,金4 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 中国語 | 提供部局 :大教センター DPコード :abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム |
| | 授業形態 講義 グループワーク | 単位数 2 | |
| 担当教員名 緒方 宏海, 高橋 明郎 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 90分×30回+自学学習(準備学習30時間+事後学習30時間) | | | |
| 授業の概要 中国語の初習者を対象として、中国語の発音と基礎文法の習得を目指し、応答練習を通して簡単なコミュニケーション能力を身につける。こうした中国語を読み、書き、聞き、話すための基礎力を養成し、様々な領域で日本と深い関係を保つ中国の社会と文化に対する関心と理解を深める。 | | | |
| 授業の目的 中国語は中国大陸・台湾の広い地域にわたって共通のことばとして使用されている。現在約13億の人々が中国語を母語として使用しており、英語を除くと世界で最も使用人口の多い言語である。中国は現在、政治や経済、科学技術の分野でますます発展を続けており、今後あらゆる分野で中国語運用能力が必要になるだろう。初級中国語の最重要ポイントである発音を、前期で習得すれば、卒業後中国語が必要になり、再度勉強しようと思った時にも、スムーズに勉強を再開することができる。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 1) 語法 動詞構文・形容詞構文などの基礎的な文法を修得する。 2) 作文 既習の文法事項を利用した文章が書ける。 3) 聴力 母音子音をそれぞれ区別して聞き取れ、また音声をピンインを用いて記述することができる。 4) 発音 ピンインにしたがい、母音子音声調を区別して発音することができる。また簡単な日常的フレーズを使うことができる。 5) 言語の使用される背景となる文化について一定の知識を得、開かれた態度で接することができる。 1)～5)は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点数を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。従って欠席の回数が授業回数の3分の1を超えた場合は、受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価の対象としない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 特にリスニングクラスでは、極力ネイティブスピーカーを配し文法クラスの半分の人数で、ピンインという発音記号の規則をしっかりと身につけた上で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音の練習を繰り返し練習する。毎回の授業の前後に予習・復習を欠かさず行うこと。文法については講義と、ドリル問題を利用した知識の定着を図る。異文化理解のため、中国に関する日本語のレポート提出を求める。 | | | |
| (1)中国語の発音と発音符号 母音、子音と声調の練習 (2)簡単な文法とスキット練習 ・初対面・場所を尋ねる、時間の表現などの練習 ・動詞述語文 ・形容詞述語文・主述構造文 ・完了、持続、進行 ・指示代名詞・付加型疑問文 ・量詞 ・離合動詞 | | | |
| なお、授業は対面で行う。 | | | |
| 【自学自習のためのアドバイス】 教科書該当箇所について音声を確認する(15時間) 該当箇所の進出単語を調べる(15時間) 練習問題、ドリルを用いた復習 20時間 指示された課題の作成(10時間) | | | |
| 教科書・参考書等 高橋明郎・王維・毛勇編『漢語 会話と語法』白帝社。 | | | |

長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。
2021年出版のテキストを購入すること。なお、2020年度にこの科目を履修している場合、ドリルのみ別途教員を通じ購入し、2020年度の教科書を使用しても差し支えない。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次（編入は3年次）の学生のみ受講できる。中国語Ⅰ・Ⅱは連続するカリキュラムであり、農学部・工学部の学生はその点を理解して受講申し込みをすること。

なお、再履修者は予め申込書を提出し、クラス指定を受けること。

| | | | |
|---|-------------------------------------|--|--|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-1N-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 045102) 中国語 I (1) □ Chinese I Chinese I | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 前期水2, 金4 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 中国語 | 提供部局 : 大教センター DPコード : abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム |
| | 授業形態 講義 グループワーク | 単位数 2 | |
| 担当教員名 胡 継民, 高橋 明郎 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 90分×30回+自学学習(準備学習30時間+事後学習30時間) | | | |
| 授業の概要 中国語の初習者を対象として、中国語の発音と基礎文法の習得を目指し、応答練習を通して簡単なコミュニケーション能力を身につける。こうした中国語を読み、書き、聞き、話すための基礎力を養成し、様々な領域で日本と深い関係を保つ中国の社会と文化に対する関心と理解を深める。 | | | |
| 授業の目的 中国語は中国大陸・台湾の広い地域にわたって共通のことばとして使用されている。現在約13億の人々が中国語を母語として使用しており、英語を除くと世界で最も使用人口の多い言語である。中国は現在、政治や経済、科学技術の分野でますます発展を続けており、今後あらゆる分野で中国語運用能力が必要になるだろう。初級中国語の最重要ポイントである発音を、前期で習得すれば、卒業後中国語が必要になり、再度勉強しようと思った時にも、スムーズに勉強を再開することができる。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 1) 語法 動詞構文・形容詞構文などの基礎的な文法を修得する。 2) 作文 既習の文法事項を利用した文章が書ける。 3) 聴力 母音子音をそれぞれ区別して聞き取れ、また音声をピンインを用いて記述することができる。 4) 発音 ピンインにしたがい、母音子音声調を区別して発音することができる。また簡単な日常的フレーズを使うことができる。 5) 言語の使用される背景となる文化について一定の知識を得、開かれた態度で接することができる。 1)～5) は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点数を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。従って欠席の回数が授業回数の3分の1を超えた場合は、受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価の対象としない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 特にリスニングクラスでは、極力ネイティブスピーカーを配し文法クラスの半分の人数で、ピンインという発音記号の規則をしっかりと身につけた上で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音の練習を繰り返し練習する。毎回の授業の前後に予習・復習を欠かさず行うこと。文法については講義と、ドリル問題を利用した知識の定着を図る。異文化理解のため、中国に関する日本語のレポート提出を求める。 | | | |
| (1) 中国語の発音と発音符号 母音、子音と声調の練習 (2) 簡単な文法とスキット練習 ・初対面・場所を尋ねる、時間の表現などの練習 ・動詞述語文 ・形容詞述語文・主述構造文 ・完了、持続、進行 ・指示代名詞・付加型疑問文 ・量詞 ・離合動詞 | | | |
| なお、授業は対面で行う。 | | | |
| 【自学自習のためのアドバイス】 教科書該当箇所について音声を確認する (15時間) 該当箇所の進出単語を調べる (15時間) 練習問題、ドリルを用いた復習 20時間 指示された課題の作成 (10時間) | | | |

教科書・参考書等

高橋明郎・王維・毛勇編『漢語 会話と語法』白帝社。

長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。

2021年出版のテキストを購入すること。なお、2020年度にこの科目を履修している場合、ドリルのみ別途教員を通じ購入し、2020年度の教科書を使用しても差し支えない。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次（編入は3年次）の学生のみ受講できる。中国語Ⅰ・Ⅱは連続するカリキュラムであり、農学部・工学部の学生はその点を理解して受講申し込みをすること。

なお、再履修者は予め申込書を提出し、クラス指定を受けること。

| | | | |
|---|-------------------------|----------------------------|---------------------------------------|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-1N-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 045103) 中国語 I (2) I Chinese I Chinese I | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 前期月3, 木2 | 対象年次 1~ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 中国語 | 提供部局: 大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム |
| | 授業形態 講義 グループワーク | 単位数 2 | |
| 担当教員名 何 燕萍, 高橋 明郎 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 90分×30回+自学学習(準備学習30時間+事後学習30時間) | | | |
| 授業の概要 中国語の初習者を対象として、中国語の発音と基礎文法の習得を目指し、応答練習を通して簡単なコミュニケーション能力を身につける。こうした中国語を読み、書き、聞き、話すための基礎力を養成し、様々な領域で日本と深い関係を保つ中国の社会と文化に対する関心と理解を深める。 | | | |
| 授業の目的 中国語は中国大陸・台湾の広い地域にわたって共通のことばとして使用されている。現在約13億の人々が中国語を母語として使用しており、英語を除くと世界で最も使用人口の多い言語である。中国は現在、政治や経済、科学技術の分野でますます発展を続けており、今後あらゆる分野で中国語運用能力が必要になるだろう。初級中国語の最重要ポイントである発音を、前期で習得すれば、卒業後中国語が必要になり、再度勉強しようと思った時にも、スムーズに勉強を再開することができる。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 1) 語法 動詞構文・形容詞構文などの基礎的な文法を修得する。 2) 作文 既習の文法事項を利用した文章が書ける。 3) 聴力 母音子音をそれぞれ区別して聞き取れ、また音声をピンインを用いて記述することができる。 4) 発音 ピンインにしたがい、母音子音声調を区別して発音することができる。また簡単な日常的フレーズを使うことができる。 5) 言語の使用される背景となる文化について一定の知識を得、開かれた態度で接することができる。 1) ~ 5) は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点数を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。従って欠席の回数が授業回数の3分の1を超えた場合は、受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価の対象としない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 特にリスニングクラスでは、極力ネイティブスピーカーを配し文法クラスの半分の人数で、ピンインという発音記号の規則をしっかりと身につけた上で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音の練習を繰り返し練習する。毎回の授業の前後に予習・復習を欠かさず行うこと。文法については講義と、ドリル問題を利用した知識の定着を図る。異文化理解のため、中国に関する日本語のレポート提出を求める。 | | | |
| (1) 中国語の発音と発音符号 母音、子音と声調の練習 (2) 簡単な文法とスキット練習 ・初対面・場所を尋ねる、時間の表現などの練習 ・動詞述語文 ・形容詞述語文・主述構造文 ・完了、持続、進行 ・指示代名詞・付加型疑問文 ・量詞 ・離合動詞 | | | |
| なお、授業は対面で行う。 | | | |
| 【自学自習のためのアドバイス】 教科書該当箇所について音声を確認する (15時間) 該当箇所の進出単語を調べる (15時間) 練習問題、ドリルを用いた復習 20時間 指示された課題の作成 (10時間) | | | |

教科書・参考書等

高橋明郎・王維・毛勇編『漢語 会話と語法』白帝社。

長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。

2021年出版のテキストを購入すること。なお、2020年度にこの科目を履修している場合、ドリルのみ別途教員を通じ購入し、2020年度の教科書を使用しても差し支えない。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次（編入は3年次）の学生のみ受講できる。中国語Ⅰ・Ⅱは連続するカリキュラムであり、農学部・工学部の学生はその点を理解して受講申し込みをすること。

なお、再履修者は予め申込書を提出し、クラス指定を受けること。

| | | | |
|--|------------------------------------|--|--|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-1N-Lg2 授業科目名 (時間割コード:045104) 中国語 I (2) □ Chinese I Chinese I | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 前期月3,木2 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 中国語 | 提供部局 :大教センター DPコード :abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム |
| | 授業形態 講義 グループワーク | 単位数 2 | |
| 担当教員名 毛 勇, 高橋 明郎 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 90分×30回+自学学習(準備学習30時間+事後学習30時間) | | | |
| 授業の概要 中国語の初習者を対象として、中国語の発音と基礎文法の習得を目指し、応答練習を通して簡単なコミュニケーション能力を身につける。こうした中国語を読み、書き、聞き、話すための基礎力を養成し、様々な領域で日本と深い関係を保つ中国の社会と文化に対する関心と理解を深める。 | | | |
| 授業の目的 中国語は中国大陸・台湾の広い地域にわたって共通のことばとして使用されている。現在約13億の人々が中国語を母語として使用しており、英語を除くと世界で最も使用人口の多い言語である。中国は現在、政治や経済、科学技術の分野でますます発展を続けており、今後あらゆる分野で中国語運用能力が必要になるだろう。初級中国語の最重要ポイントである発音を、前期で習得すれば、卒業後中国語が必要になり、再度勉強しようと思った時にも、スムーズに勉強を再開することができる。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 1) 語法 動詞構文・形容詞構文などの基礎的な文法を修得する。 2) 作文 既習の文法事項を利用した文章が書ける。 3) 聴力 母音子音をそれぞれ区別して聞き取れ、また音声をピンインを用いて記述することができる。 4) 発音 ピンインにしたがい、母音子音声調を区別して発音することができる。また簡単な日常的フレーズを使うことができる。 5) 言語の使用される背景となる文化について一定の知識を得、開かれた態度で接することができる。 1)～5)は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点数を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。従って欠席の回数が授業回数の3分の1を超えた場合は、受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価の対象としない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 特にリスニングクラスでは、極力ネイティブスピーカーを配し文法クラスの半分の人数で、ピンインという発音記号の規則をしっかりと身につけた上で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音の練習を繰り返し練習する。毎回の授業の前後に予習・復習を欠かさず行うこと。文法については講義と、ドリル問題を利用した知識の定着を図る。異文化理解のため、中国に関する日本語のレポート提出を求める。 | | | |
| (1)中国語の発音と発音符号 母音、子音と声調の練習 (2)簡単な文法とスキット練習 ・初対面・場所を尋ねる、時間の表現などの練習 ・動詞述語文 ・形容詞述語文・主述構造文 ・完了、持続、進行 ・指示代名詞・付加型疑問文 ・量詞 ・離合動詞 | | | |
| なお、授業は対面で行う。 | | | |
| 【自学自習のためのアドバイス】 | | | |
| 教科書該当箇所について音声を確認する (15時間) 該当箇所の進出単語を調べる (15時間) 練習問題、ドリルを用いた復習 20時間 指示された課題の作成 (10時間) | | | |
| 教科書・参考書等 高橋明郎・王維・毛勇編『漢語 会話と語法』白帝社。 | | | |

長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。
2021年出版のテキストを購入すること。なお、2020年度にこの科目を履修している場合、ドリルのみ別途教員を通じ購入し、2020年度の教科書を使用しても差し支えない。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次（編入は3年次）の学生のみ受講できる。中国語Ⅰ・Ⅱは連続するカリキュラムであり、農学部・工学部の学生はその点を理解して受講申し込みをすること。

なお、再履修者は予め申込書を提出し、クラス指定を受けること。

| | | | |
|--|------------------------------------|--|---|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-1N-Lg2 授業科目名 (時間割コード:045105) 中国語 I (3)Z I Chinese I Chinese I | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 前期月3,木2 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 中国語 | 提供部局 :大教センター DPコード :abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム |
| | 授業形態 講義 グループワーク | 単位数 2 | |
| 担当教員名 李 佳坤, 張 蕾 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 90分×30回+自学学習(準備学習30時間+事後学習30時間) | | | |
| 授業の概要 中国語の初習者を対象として、中国語の発音と基礎文法の習得を目指し、応答練習を通して簡単なコミュニケーション能力を身につける。こうした中国語を読み、書き、聞き、話すための基礎力を養成し、様々な領域で日本と深い関係を保つ中国の社会と文化に対する関心と理解を深める。 | | | |
| 授業の目的 中国語は中国大陸・台湾の広い地域にわたって共通のことばとして使用されている。現在約13億の人々が中国語を母語として使用しており、英語を除くと世界で最も使用人口の多い言語である。中国は現在、政治や経済、科学技術の分野でますます発展を続けており、今後あらゆる分野で中国語運用能力が必要になるだろう。初級中国語の最重要ポイントである発音を、前期で習得すれば、卒業後中国語が必要になり、再度勉強しようと思った時にも、スムーズに勉強を再開することができる。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 1) 語法 動詞構文・形容詞構文などの基礎的な文法を修得する。 2) 作文 既習の文法事項を利用した文章が書ける。 3) 聴力 母音子音をそれぞれ区別して聞き取れ、また音声をピンインを用いて記述することができる。 4) 発音 ピンインにしたがい、母音子音声調を区別して発音することができる。また簡単な日常的フレーズを使うことができる。 5) 言語の使用される背景となる文化について一定の知識を得、開かれた態度で接することができる。 1)～5)は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点数を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。従って欠席の回数が授業回数の3分の1を超えた場合は、受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価の対象としない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 特にリスニングクラスでは、極力ネイティブスピーカーを配し文法クラスの半分の人数で、ピンインという発音記号の規則をしっかりと身につけた上で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音の練習を繰り返し練習する。毎回の授業の前後に予習・復習を欠かさず行うこと。文法については講義と、ドリル問題を利用した知識の定着を図る。異文化理解のため、中国に関する日本語のレポート提出を求める。 | | | |
| (1)中国語の発音と発音符号 母音、子音と声調の練習 (2)簡単な文法とスキット練習 ・初対面・場所を尋ねる、時間の表現などの練習 ・動詞述語文 ・形容詞述語文・主述構造文 ・完了、持続、進行 ・指示代名詞・付加型疑問文 ・量詞 ・離合動詞 | | | |
| なお、授業は対面で行う。 | | | |
| 【自学自習のためのアドバイス】 教科書該当箇所について音声を確認する(15時間) 該当箇所の進出単語を調べる(15時間) 練習問題、ドリルを用いた復習 20時間 指示された課題の作成(10時間) | | | |
| 教科書・参考書等 高橋明郎・王維・毛勇編『漢語 会話と語法』白帝社。 | | | |

長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。
2021年出版のテキストを購入すること。なお、2020年度にこの科目を履修している場合、ドリルのみ別途教員を通じ購入し、2020年度の教科書を使用しても差し支えない。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次（編入は3年次）の学生のみ受講できる。中国語Ⅰ・Ⅱは連続するカリキュラムであり、農学部・工学部の学生はその点を理解して受講申し込みをすること。

なお、再履修者は予め申込書を提出し、クラス指定を受けること。

| | | | |
|---|-------------------------|----------------------------|---------------------------------------|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-1N-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 045106) 中国語 I (3) □ Chinese I Chinese I | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 前期月3, 木2 | 対象年次 1~ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 中国語 | 提供部局: 大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム |
| | 授業形態 講義 グループワーク | 単位数 2 | |
| 担当教員名 李 佳坤, 胡 継民 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 90分×30回+自学学習(準備学習30時間+事後学習30時間) | | | |
| 授業の概要 中国語の初習者を対象として、中国語の発音と基礎文法の習得を目指し、応答練習を通して簡単なコミュニケーション能力を身につける。こうした中国語を読み、書き、聞き、話すための基礎力を養成し、様々な領域で日本と深い関係を保つ中国の社会と文化に対する関心と理解を深める。 | | | |
| 授業の目的 中国語は中国大陸・台湾の広い地域にわたって共通のことばとして使用されている。現在約13億の人々が中国語を母語として使用しており、英語を除くと世界で最も使用人口の多い言語である。中国は現在、政治や経済、科学技術の分野でますます発展を続けており、今後あらゆる分野で中国語運用能力が必要になるだろう。初級中国語の最重要ポイントである発音を、前期で習得すれば、卒業後中国語が必要になり、再度勉強しようと思った時にも、スムーズに勉強を再開することができる。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 1) 語法 動詞構文・形容詞構文などの基礎的な文法を修得する。 2) 作文 既習の文法事項を利用した文章が書ける。 3) 聴力 母音子音をそれぞれ区別して聞き取れ、また音声をピンインを用いて記述することができる。 4) 発音 ピンインにしたがい、母音子音声調を区別して発音することができる。また簡単な日常的フレーズを使うことができる。 5) 言語の使用される背景となる文化について一定の知識を得、開かれた態度で接することができる。 1) ~ 5) は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点数を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。従って欠席の回数が授業回数の3分の1を超えた場合は、受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価の対象としない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 特にリスニングクラスでは、極力ネイティブスピーカーを配し文法クラスの半分の人数で、ピンインという発音記号の規則をしっかりと身につけた上で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音の練習を繰り返し練習する。毎回の授業の前後に予習・復習を欠かさず行うこと。文法については講義と、ドリル問題を利用した知識の定着を図る。異文化理解のため、中国に関する日本語のレポート提出を求める。 | | | |
| (1) 中国語の発音と発音符号 母音、子音と声調の練習 (2) 簡単な文法とスキット練習 ・初対面・場所を尋ねる、時間の表現などの練習 ・動詞述語文 ・形容詞述語文・主述構造文 ・完了、持続、進行 ・指示代名詞・付加型疑問文 ・量詞 ・離合動詞 | | | |
| なお、授業は対面で行う。 | | | |
| 【自学自習のためのアドバイス】 教科書該当箇所について音声を確認する (15時間) 該当箇所の進出単語を調べる (15時間) 練習問題、ドリルを用いた復習 20時間 指示された課題の作成 (10時間) | | | |

教科書・参考書等

高橋明郎・王維・毛勇編『漢語 会話と語法』白帝社。

長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。

2021年出版のテキストを購入すること。なお、2020年度にこの科目を履修している場合、ドリルのみ別途教員を通じ購入し、2020年度の教科書を使用しても差し支えない。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次（編入は3年次）の学生のみ受講できる。中国語Ⅰ・Ⅱは連続するカリキュラムであり、農学部・工学部の学生はその点を理解して受講申し込みをすること。

なお、再履修者は予め申込書を提出し、クラス指定を受けること。

| | | | |
|---|------------------------------------|--|--|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-1N-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 045107) 中国語 I (4) I Chinese I Chinese I | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 前期月4, 木3 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 中国語 | 提供部局 : 大教センター DPコード : abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム |
| | 授業形態 講義 グループワーク | 単位数 2 | |
| 担当教員名 高橋 明郎, 胡 継民 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 90分×30回+自学学習(準備学習30時間+事後学習30時間) | | | |
| 授業の概要 中国語の初習者を対象として、中国語の発音と基礎文法の習得を目指し、応答練習を通して簡単なコミュニケーション能力を身につける。こうした中国語を読み、書き、聞き、話すための基礎力を養成し、様々な領域で日本と深い関係を保つ中国の社会と文化に対する関心と理解を深める。 | | | |
| 授業の目的 中国語は中国大陸・台湾の広い地域にわたって共通のことばとして使用されている。現在約13億の人々が中国語を母語として使用しており、英語を除くと世界で最も使用人口の多い言語である。中国は現在、政治や経済、科学技術の分野でますます発展を続けており、今後あらゆる分野で中国語運用能力が必要になるだろう。初級中国語の最重要ポイントである発音を、前期で習得すれば、卒業後中国語が必要になり、再度勉強しようと思った時にも、スムーズに勉強を再開することができる。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 1) 語法 動詞構文・形容詞構文などの基礎的な文法を修得する。 2) 作文 既習の文法事項を利用した文章が書ける。 3) 聴力 母音子音をそれぞれ区別して聞き取れ、また音声をピンインを用いて記述することができる。 4) 発音 ピンインにしたがい、母音子音声調を区別して発音することができる。また簡単な日常的フレーズを使うことができる。 5) 言語の使用される背景となる文化について一定の知識を得、開かれた態度で接することができる。 1)～5) は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点数を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。従って欠席の回数が授業回数の3分の1を超えた場合は、受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価の対象としない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 特にリスニングクラスでは、極力ネイティブスピーカーを配し文法クラスの半分の人数で、ピンインという発音記号の規則をしっかりと身につけた上で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音の練習を繰り返し練習する。毎回の授業の前後に予習・復習を欠かさず行うこと。文法については講義と、ドリル問題を利用した知識の定着を図る。異文化理解のため、中国に関する日本語のレポート提出を求める。 | | | |
| (1) 中国語の発音と発音符号 母音、子音と声調の練習 (2) 簡単な文法とスキット練習 ・初対面・場所を尋ねる、時間の表現などの練習 ・動詞述語文 ・形容詞述語文・主述構造文 ・完了、持続、進行 ・指示代名詞・付加型疑問文 ・量詞 ・離合動詞 なお、授業は対面で行う。 | | | |
| 【自学自習のためのアドバイス】 | | | |
| 教科書該当箇所について音声を確認する (15時間) 該当箇所の進出単語を調べる (15時間) 練習問題、ドリルを用いた復習 20時間 指示された課題の作成 (10時間) | | | |
| 教科書・参考書等 高橋明郎・王維・毛勇編『漢語 会話と語法』白帝社。 | | | |

長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。
2021年出版のテキストを購入すること。なお、2020年度にこの科目を履修している場合、ドリルのみ別途教員を通じ購入し、2020年度の教科書を使用しても差し支えない。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次（編入は3年次）の学生のみ受講できる。中国語Ⅰ・Ⅱは連続するカリキュラムであり、農学部・工学部の学生はその点を理解して受講申し込みをすること。

なお、再履修者は予め申込書を提出し、クラス指定を受けること。

| | | | | |
|--|------------------------------------|--|---|--|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-1N-Lg2 授業科目名 (時間割コード:045108) 中国語 I (4) □ Chinese I Chinese I | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 前期月4,木2 | 対象年次 1～ | |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 中国語 | 提供部局 :大教センター DPコード :abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネット・プログラム | |
| | 授業形態 講義 グループワーク | 単位数 2 | | |
| 担当教員名 高橋 明郎, 劉 曉君 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | | |
| 学習時間 90分×30回+自学学習(準備学習30時間+事後学習30時間) | | | | |
| 授業の概要 中国語の初習者を対象として、中国語の発音と基礎文法の習得を目指し、応答練習を通して簡単なコミュニケーション能力を身につける。こうした中国語を読み、書き、聞き、話すための基礎力を養成し、様々な領域で日本と深い関係を保つ中国の社会と文化に対する関心と理解を深める。 | | | | |
| 授業の目的 中国語は中国大陸・台湾の広い地域にわたって共通のことばとして使用されている。現在約13億の人々が中国語を母語として使用しており、英語を除くと世界で最も使用人口の多い言語である。中国は現在、政治や経済、科学技術の分野でますます発展を続けており、今後あらゆる分野で中国語運用能力が必要になるだろう。初級中国語の最重要ポイントである発音を、前期で習得すれば、卒業後中国語が必要になり、再度勉強しようと思った時にも、スムーズに勉強を再開することができる。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 1) 語法 動詞構文・形容詞構文などの基礎的な文法を修得する。 2) 作文 既習の文法事項を利用した文章が書ける。 3) 聴力 母音子音をそれぞれ区別して聞き取れ、また音声をピンインを用いて記述することができる。 4) 発音 ピンインにしたがい、母音子音声調を区別して発音することができる。また簡単な日常的フレーズを使うことができる。 5) 言語の使用される背景となる文化について一定の知識を得、開かれた態度で接することができる。 1)～5)は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 | | | | |
| 成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点数を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。従って欠席の回数が授業回数の3分の1を超えた場合は、受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価の対象としない。 | | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | | |
| 特にリスニングクラスでは、極力ネイティブスピーカーを配し文法クラスの半分の人数で、ピンインという発音記号の規則をしっかりと身につけた上で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音の練習を繰り返し練習する。毎回の授業の前後に予習・復習を欠かさず行うこと。文法については講義と、ドリル問題を利用した知識の定着を図る。異文化理解のため、中国に関する日本語のレポート提出を求める。 | | | | |
| (1)中国語の発音と発音符号 母音、子音と声調の練習 (2)簡単な文法とスキット練習 ・初対面・場所を尋ねる、時間の表現などの練習 ・動詞述語文 ・形容詞述語文・主述構造文 ・完了、持続、進行 ・指示代名詞・付加型疑問文 ・量詞 ・離合動詞 | | | | |
| なお、授業は対面で行う。 | | | | |
| 【自学自習のためのアドバイス】 教科書該当箇所について音声を確認する(15時間) 該当箇所の進出単語を調べる(15時間) 練習問題、ドリルを用いた復習 20時間 指示された課題の作成(10時間) | | | | |
| 教科書・参考書等 高橋明郎・王維・毛勇編『漢語 会話と語法』白帝社。 | | | | |

長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。
2021年出版のテキストを購入すること。なお、2020年度にこの科目を履修している場合、ドリルのみ別途教員を通じ購入し、2020年度の教科書を使用しても差し支えない。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次（編入は3年次）の学生のみ受講できる。中国語Ⅰ・Ⅱは連続するカリキュラムであり、農学部・工学部の学生はその点を理解して受講申し込みをすること。

なお、再履修者は予め申込書を提出し、クラス指定を受けること。

| | | | |
|--|-------------------------|--------------------------|---------------------------------------|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-1N-Lg2 授業科目名 (時間割コード:045109) 中国語 I (4)Zハ Chinese I Chinese I | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 前期月4,木3 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 中国語 | 提供部局:大教センター DPコード:abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム |
| | 授業形態 講義 グループワーク | 単位数 2 | |
| 担当教員名 高橋 明郎, 毛 勇 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 90分×30回+自学学習(準備学習30時間+事後学習30時間) | | | |
| 授業の概要 中国語の初習者を対象として、中国語の発音と基礎文法の習得を目指し、応答練習を通して簡単なコミュニケーション能力を身につける。こうした中国語を読み、書き、聞き、話すための基礎力を養成し、様々な領域で日本と深い関係を保つ中国の社会と文化に対する関心と理解を深める。 | | | |
| 授業の目的 中国語は中国大陸・台湾の広い地域にわたって共通のことばとして使用されている。現在約13億の人々が中国語を母語として使用しており、英語を除くと世界で最も使用人口の多い言語である。中国は現在、政治や経済、科学技術の分野でますます発展を続けており、今後あらゆる分野で中国語運用能力が必要になるだろう。初級中国語の最重要ポイントである発音を、前期で習得すれば、卒業後中国語が必要になり、再度勉強しようと思った時にも、スムーズに勉強を再開することができる。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 1) 語法 動詞構文・形容詞構文などの基礎的な文法を修得する。 2) 作文 既習の文法事項を利用した文章が書ける。 3) 聴力 母音子音をそれぞれ区別して聞き取れ、また音声をピンインを用いて記述することができる。 4) 発音 ピンインにしたがい、母音子音声調を区別して発音することができる。また簡単な日常的フレーズを使うことができる。 5) 言語の使用される背景となる文化について一定の知識を得、開かれた態度で接することができる。 1)～5)は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点数を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。従って欠席の回数が授業回数の3分の1を超えた場合は、受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価の対象としない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 特にリスニングクラスでは、極力ネイティブスピーカーを配し文法クラスの半分の人数で、ピンインという発音記号の規則をしっかりと身につけた上で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音の練習を繰り返し練習する。毎回の授業の前後に予習・復習を欠かさず行うこと。文法については講義と、ドリル問題を利用した知識の定着を図る。異文化理解のため、中国に関する日本語のレポート提出を求める。 | | | |
| (1)中国語の発音と発音符号 母音、子音と声調の練習 (2)簡単な文法とスキット練習 ・初対面・場所を尋ねる、時間の表現などの練習 ・動詞述語文 ・形容詞述語文・主述構造文 ・完了、持続、進行 ・指示代名詞・付加型疑問文 ・量詞 ・離合動詞 | | | |
| なお、授業は対面で行う。 | | | |
| 【自学自習のためのアドバイス】 教科書該当箇所について音声を確認する(15時間) 該当箇所の進出単語を調べる(15時間) 練習問題、ドリルを用いた復習 20時間 指示された課題の作成(10時間) | | | |
| 教科書・参考書等 高橋明郎・王維・毛勇編『漢語 会話と語法』白帝社。 | | | |

長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。
2021年出版のテキストを購入すること。なお、2020年度にこの科目を履修している場合、ドリルのみ別途教員を通じ購入し、2020年度の教科書を使用しても差し支えない。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次（編入は3年次）の学生のみ受講できる。中国語Ⅰ・Ⅱは連続するカリキュラムであり、農学部・工学部の学生はその点を理解して受講申し込みをすること。

なお、再履修者は予め申込書を提出し、クラス指定を受けること。

| | | | |
|--|-------------------------------------|--|--|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 045201) 中国語Ⅱ (1) Ⅰ Chinese Ⅱ 中国語Ⅱ Chinese(Ⅱ) | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 後期水2, 金4 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 中国語 | 提供部局 : 大教センター DPコード : abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 グループワーク | 単位数 2 | |
| 担当教員名 高橋 明郎 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 90分×15回+自学学習(準備学習15時間+事後学習30時間+課題学習15時間) | | | |
| 授業の概要 この授業では、中国語Ⅰ(前期)において身につけた基礎学力をもとに様々なトピックにまつわる平易な会話文及び文章を読みながら、初級中国語の基本的な文法項目を学習する。口頭・聴解・読解・作文の学習活動を通して総合的なコミュニケーション能力の向上に努めていく。 | | | |
| 授業の目的 中国語コミュニケーション能力の定着のため、発音という最初で最大の難関を克服した学生の皆さんに、中国語で相手の意思を理解し、自分自身の意思を相手に伝えることの楽しさを体現してもらうのがこの授業の目的である。またこの学期に学習する文法事項は中国語独特のものが多く、中国語文読解・作成などの作業の基盤を身につける。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 1) 語法 各種補語、連鎖式、被動式などの文法事項を習得し短い文章が訳せる。 2) 作文 既習の文法事項を利用し、自分及び身の回りのことについて記述できる。 3) 聴力 基本的単語が聞き取れ、ゆっくり読まれた簡単な文が理解できる。 4) 発音 コミュニケーションのための極めて初歩的な会話(自己紹介、挨拶、名前を聞く)などができる。 1)～4)は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価対象としない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| リスニングクラスでは、可能な限りネイティブスピーカーを配し、文法クラスの半分の人数で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音を繰り返し練習していく。文法については講義形式を基本とし、ドリルで練習問題をこなすことで、知識の定着を図る。 | | | |
| (1) 語法 ・助動詞・介詞 ・各種補語の用法 ・処置式 ・使役と受身 ・重文 | | | |
| (2) 会話 ・食事 ・郵便局 ・日本の習慣の紹介など | | | |
| (3) 作文 ・自分自身や身の回りのことについて、中国語の文章でまとめる。 | | | |
| 授業は対面で行う。 | | | |
| 【自学自習のためのアドバイス】 授業範囲の音声聞き単語を確認する(15時間) 音読の練習及び練習・ドリル問題の解答(30時間) 中国語作文課題(15時間) | | | |
| 教科書・参考書等 高橋明郎・王維・毛勇編「漢語 会話と語法」白帝社。 長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。 なお、2020年度にこの科目を履修した者は、ドリルのみ教員を通じ購入し、2020年度のものを使用すること | | | |

を認める。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次（編入は3年次）の学生のみ受講できる。基礎ⅡはⅠに連続したするカリキュラムであり、Ⅰを受講せずにⅡを受講できない。再履修の学生は予め後期開始前、指定する時期までに履修願を提出してクラス指定を受けること。

| | | | |
|--|-------------------------------------|--|--|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 045202) 中国語Ⅱ (1) □ Chinese II 中国語Ⅱ Chinese(Ⅱ) | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 後期水2, 金4 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 中国語 | 提供部局 : 大教センター DPコード : abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 グループワーク | 単位数 2 | |
| 担当教員名 緒方 宏海, 高橋 明郎 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 90分×15回+自学学習(準備学習15時間+事後学習30時間+課題学習15時間) | | | |
| 授業の概要 この授業では、中国語Ⅰ(前期)において身につけた基礎学力をもとに様々なトピックにまつわる平易な会話文及び文章を読みながら、初級中国語の基本的な文法項目を学習する。口頭・聴解・読解・作文の学習活動を通して総合的なコミュニケーション能力の向上に努めていく。 | | | |
| 授業の目的 中国語コミュニケーション能力の定着のため、発音という最初で最大の難関を克服した学生の皆さんに、中国語で相手の意思を理解し、自分自身の意思を相手に伝えることの楽しさを体現してもらうのがこの授業の目的である。またこの学期に学習する文法事項は中国語独特のものが多く、中国語文読解・作成などの作業の基盤を身につける。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 1) 語法 各種補語、連鎖式、被動式などの文法事項を習得し短い文章が訳せる。 2) 作文 既習の文法事項を利用し、自分及び身の回りのことについて記述できる。 3) 聴力 基本的単語が聞き取れ、ゆっくり読まれた簡単な文が理解できる。 4) 発音 コミュニケーションのための極めて初歩的な会話(自己紹介、挨拶、名前を聞く)などができる。 1)～4)は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価対象としない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| リスニングクラスでは、可能な限りネイティブスピーカーを配し、文法クラスの半分の人数で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音を繰り返し練習していく。文法については講義形式を基本とし、ドリルで練習問題をこなすことで、知識の定着を図る。 | | | |
| (1) 語法 ・助動詞・介詞 ・各種補語の用法 ・処置式 ・使役と受身 ・重文 | | | |
| (2) 会話 ・食事 ・郵便局 ・日本の習慣の紹介など | | | |
| (3) 作文 ・自分自身や身の回りのことについて、中国語の文章でまとめる。 | | | |
| 授業は対面で行う。 | | | |
| 【自学自習のためのアドバイス】 授業範囲の音声聞き単語を確認する(15時間) 音読の練習及び練習・ドリル問題の解答(30時間) 中国語作文課題(15時間) | | | |
| 教科書・参考書等 高橋明郎・王維・毛勇編「漢語 会話と語法」白帝社。 長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。 なお、2020年度にこの科目を履修した者は、ドリルのみ教員を通じ購入し、2020年度のものを使用すること | | | |

を認める。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次（編入は3年次）の学生のみ受講できる。基礎ⅡはⅠに連続したするカリキュラムであり、Ⅰを受講せずにⅡを受講できない。再履修の学生は予め後期開始前、指定する時期までに履修願を提出してクラス指定を受けること。

| | | | |
|--|------------------------------------|--|--|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 045203) 中国語Ⅱ (2) Ⅰ Chinese II 中国語Ⅱ Chinese(Ⅱ) | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 後期月3,木2 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 中国語 | 提供部局 : 大教センター DPコード : abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 グループワーク | 単位数 2 | |
| 担当教員名 高橋 明郎 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 90分×15回+自学学習(準備学習15時間+事後学習30時間+課題学習15時間) | | | |
| 授業の概要 この授業では、中国語Ⅰ(前期)において身につけた基礎学力をもとに様々なトピックにまつわる平易な会話文及び文章を読みながら、初級中国語の基本的な文法項目を学習する。口頭・聴解・読解・作文の学習活動を通して総合的なコミュニケーション能力の向上に努めていく。 | | | |
| 授業の目的 中国語コミュニケーション能力の定着のため、発音という最初で最大の難関を克服した学生の皆さんに、中国語で相手の意思を理解し、自分自身の意思を相手に伝えることの楽しさを体現してもらうのがこの授業の目的である。またこの学期に学習する文法事項は中国語独特のものが多く、中国語文読解・作成などの作業の基盤を身につける。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 1) 語法 各種補語、連鎖式、被動式などの文法事項を習得し短い文章が訳せる。 2) 作文 既習の文法事項を利用し、自分及び身の回りのことについて記述できる。 3) 聴力 基本的単語が聞き取れ、ゆっくり読まれた簡単な文が理解できる。 4) 発音 コミュニケーションのための極めて初歩的な会話(自己紹介、挨拶、名前を聞く)などができる。 1)～4)は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価対象としない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| リスニングクラスでは、可能な限りネイティブスピーカーを配し、文法クラスの半分の人数で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音を繰り返し練習していく。文法については講義形式を基本とし、ドリルで練習問題をこなすことで、知識の定着を図る。 | | | |
| (1) 語法 ・助動詞・介詞 ・各種補語の用法 ・処置式 ・使役と受身 ・重文 | | | |
| (2) 会話 ・食事 ・郵便局 ・日本の習慣の紹介など | | | |
| (3) 作文 ・自分自身や身の回りのことについて、中国語の文章でまとめる。 | | | |
| 授業は対面で行う。 | | | |
| 【自学自習のためのアドバイス】 授業範囲の音声聞き単語を確認する(15時間) 音読の練習及び練習・ドリル問題の解答(30時間) 中国語作文課題(15時間) | | | |
| 教科書・参考書等 高橋明郎・王維・毛勇編「漢語 会話と語法」白帝社。 長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。 なお、2020年度にこの科目を履修した者は、ドリルのみ教員を通じ購入し、2020年度のものを使用すること | | | |

を認める。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次（編入は3年次）の学生のみ受講できる。基礎ⅡはⅠに連続したするカリキュラムであり、Ⅰを受講せずにⅡを受講できない。再履修の学生は予め後期開始前、指定する時期までに履修願を提出してクラス指定を受けること。

| | | | |
|--|-------------------------------------|--|--|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 045204) 中国語Ⅱ (2) □ Chinese II 中国語Ⅱ Chinese(Ⅱ) | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 後期月3, 木2 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 中国語 | 提供部局 : 大教センター DPコード : abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 グループワーク | 単位数 2 | |
| 担当教員名 高橋 明郎, 胡 継民 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 90分×15回+自学学習(準備学習1.5時間+事後学習3.0時間+課題学習1.5時間) | | | |
| 授業の概要 この授業では、中国語Ⅰ(前期)において身につけた基礎学力をもとに様々なトピックにまつわる平易な会話文及び文章を読みながら、初級中国語の基本的な文法項目を学習する。口頭・聴解・読解・作文の学習活動を通して総合的なコミュニケーション能力の向上に努めていく。 | | | |
| 授業の目的 中国語語コミュニケーション能力の定着のため、発音という最初で最大の難関を克服した学生の皆さんに、中国語で相手の意思を理解し、自分自身の意思を相手に伝えることの楽しさを体験してもらうのがこの授業の目的である。またこの学期に学習する文法事項は中国語独特のものが多く、中国語文読解・作成などの作業の基盤を身につける。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 1) 語法 各種補語、連鎖式、被動式などの文法事項を習得し短い文章が訳せる。 2) 作文 既習の文法事項を利用し、自分及び身の回りのことについて記述できる。 3) 聴力 基本的単語が聞き取れ、ゆっくり読まれた簡単な文が理解できる。 4) 発音 コミュニケーションのための極めて初歩的な会話(自己紹介、挨拶、名前を聞く)などができる。 1)～4)は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価対象としない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| リスニングクラスでは、可能な限りネイティブスピーカーを配し、文法クラスの半分の人数で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音を繰り返し練習していく。文法については講義形式を基本とし、ドリルで練習問題をこなすことで、知識の定着を図る。 | | | |
| (1) 語法 ・助動詞・介詞 ・各種補語の用法 ・処置式 ・使役と受身 ・重文 | | | |
| (2) 会話 ・食事 ・郵便局 ・日本の習慣の紹介など | | | |
| (3) 作文 ・自分自身や身の回りのことについて、中国語の文章でまとめる。 | | | |
| 授業は対面で行う。 | | | |
| 【自学自習のためのアドバイス】 授業範囲の音声聞き単語を確認する(1.5時間) 音読の練習及び練習・ドリル問題の解答(3.0時間) 中国語作文課題(1.5時間) | | | |
| 教科書・参考書等 高橋明郎・王維・毛勇編「漢語 会話と語法」白帝社。 長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。 | | | |

なお、2020年度にこの科目を履修した者は、ドリルのみ教員を通じ購入し、2020年度のものを使用することを認める。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次（編入は3年次）の学生のみ受講できる。基礎ⅡはⅠに連続したするカリキュラムであり、Ⅰを受講せずにⅡを受講できない。再履修の学生は予め後期開始前、指定する時期までに履修願を提出してクラス指定を受けること。

| | | | |
|--|-------------------------------------|--|--|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 045205) 中国語Ⅱ (3) Ⅰ Chinese II 中国語Ⅱ Chinese(Ⅱ) | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 後期月4, 木3 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 中国語 | 提供部局 : 大教センター DPコード : abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 グループワーク | 単位数 2 | |
| 担当教員名 高橋 明郎, 胡 継民 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 90分×15回+自学学習(準備学習15時間+事後学習30時間+課題学習15時間) | | | |
| 授業の概要 この授業では、中国語Ⅰ(前期)において身につけた基礎学力をもとに様々なトピックにまつわる平易な会話文及び文章を読みながら、初級中国語の基本的な文法項目を学習する。口頭・聴解・読解・作文の学習活動を通して総合的なコミュニケーション能力の向上に努めていく。 | | | |
| 授業の目的 中国語コミュニケーション能力の定着のため、発音という最初で最大の難関を克服した学生の皆さんに、中国語で相手の意思を理解し、自分自身の意思を相手に伝えることの楽しさを体現してもらうのがこの授業の目的である。またこの学期に学習する文法事項は中国語独特のものが多く、中国語文読解・作成などの作業の基盤を身につける。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 1) 語法 各種補語、連鎖式、被動式などの文法事項を習得し短い文章が訳せる。 2) 作文 既習の文法事項を利用し、自分及び身の回りのことについて記述できる。 3) 聴力 基本的単語が聞き取れ、ゆっくり読まれた簡単な文が理解できる。 4) 発音 コミュニケーションのための極めて初歩的な会話(自己紹介、挨拶、名前を聞く)などができる。 1)～4)は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価対象としない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| リスニングクラスでは、可能な限りネイティブスピーカーを配し、文法クラスの半分の人数で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音を繰り返し練習していく。文法については講義形式を基本とし、ドリルで練習問題をこなすことで、知識の定着を図る。 | | | |
| (1) 語法 ・助動詞・介詞 ・各種補語の用法 ・処置式 ・使役と受身 ・重文 (2) 会話 ・食事 ・郵便局 ・日本の習慣の紹介など (3) 作文 ・自分自身や身の回りのことについて、中国語の文章でまとめる。 | | | |
| 授業は対面で行う。 | | | |
| 【自学自習のためのアドバイス】 授業範囲の音声聞き単語を確認する(15時間) 音読の練習及び練習・ドリル問題の解答(30時間) 中国語作文課題(15時間) | | | |
| 教科書・参考書等 高橋明郎・王維・毛勇編「漢語 会話と語法」白帝社。 長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。 なお、2020年度にこの科目を履修した者は、ドリルのみ教員を通じ購入し、2020年度のものを使用すること | | | |

を認める。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次（編入は3年次）の学生のみ受講できる。基礎ⅡはⅠに連続したするカリキュラムであり、Ⅰを受講せずにⅡを受講できない。再履修の学生は予め後期開始前、指定する時期までに履修願を提出してクラス指定を受けること。

| | | | |
|--|-------------------------------------|--|--|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 045206) 中国語Ⅱ (3)Z ρ Chinese II 中国語Ⅱ Chinese(Ⅱ) | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 後期月4, 木3 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 中国語 | 提供部局 : 大教センター DPコード : abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 グループワーク | 単位数 2 | |
| 担当教員名 高橋 明郎, 李 九妹 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 90分×15回+自学学習(準備学習15時間+事後学習30時間+課題学習15時間) | | | |
| 授業の概要 この授業では、中国語Ⅰ(前期)において身につけた基礎学力をもとに様々なトピックにまつわる平易な会話文及び文章を読みながら、初級中国語の基本的な文法項目を学習する。口頭・聴解・読解・作文の学習活動を通して総合的なコミュニケーション能力の向上に努めていく。 | | | |
| 授業の目的 中国語コミュニケーション能力の定着のため、発音という最初で最大の難関を克服した学生の皆さんに、中国語で相手の意思を理解し、自分自身の意思を相手に伝えることの楽しさを体現してもらうのがこの授業の目的である。またこの学期に学習する文法事項は中国語独特のものが多く、中国語文読解・作成などの作業の基盤を身につける。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 1) 語法 各種補語、連鎖式、被動式などの文法事項を習得し短い文章が訳せる。 2) 作文 既習の文法事項を利用し、自分及び身の回りのことについて記述できる。 3) 聴力 基本的単語が聞き取れ、ゆっくり読まれた簡単な文が理解できる。 4) 発音 コミュニケーションのための極めて初歩的な会話(自己紹介、挨拶、名前を聞く)などができる。 1)～4)は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価対象としない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| リスニングクラスでは、可能な限りネイティブスピーカーを配し、文法クラスの半分の人数で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音を繰り返し練習していく。文法については講義形式を基本とし、ドリルで練習問題をこなすことで、知識の定着を図る。 | | | |
| (1) 語法 ・助動詞・介詞 ・各種補語の用法 ・処置式 ・使役と受身 ・重文 (2) 会話 ・食事 ・郵便局 ・日本の習慣の紹介など (3) 作文 ・自分自身や身の回りのことについて、中国語の文章でまとめる。 | | | |
| 授業は対面で行う。 | | | |
| 【自学自習のためのアドバイス】 授業範囲の音声聞き単語を確認する(15時間) 音読の練習及び練習・ドリル問題の解答(30時間) 中国語作文課題(15時間) | | | |
| 教科書・参考書等 高橋明郎・王維・毛勇編「漢語 会話と語法」白帝社。 長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。 | | | |

なお、2020年度にこの科目を履修した者は、ドリルのみ教員を通じ購入し、2020年度のものを使用することを認める。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次（編入は3年次）の学生のみ受講できる。基礎ⅡはⅠに連続したするカリキュラムであり、Ⅰを受講せずにⅡを受講できない。再履修の学生は予め後期開始前、指定する時期までに履修願を提出してクラス指定を受けること。

| | | | |
|--|------------------------------------|--|--|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:045207) 中国語Ⅱ (4)ZⅠ ChineseⅡ 中国語Ⅱ Chinese(Ⅱ) | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 後期月3,木2 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 中国語 | 提供部局 :大教センター DPコード :abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 グループワーク | 単位数 2 | |
| 担当教員名 胡 継民, 李 佳坤 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 90分×15回+自学学習(準備学習1.5時間+事後学習3.0時間+課題学習1.5時間) | | | |
| 授業の概要 この授業では、中国語Ⅰ(前期)において身につけた基礎学力をもとに様々なトピックにまつわる平易な会話文及び文章を読みながら、初級中国語の基本的な文法項目を学習する。口頭・聴解・読解・作文の学習活動を通して総合的なコミュニケーション能力の向上に努めていく。 | | | |
| 授業の目的 中国語語コミュニケーション能力の定着のため、発音という最初で最大の難関を克服した学生の皆さんに、中国語で相手の意思を理解し、自分自身の意思を相手に伝えることの楽しさを体験してもらうのがこの授業の目的である。またこの学期に学習する文法事項は中国語独特のものが多く、中国語文読解・作成などの作業の基盤を身につける。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 1) 語法 各種補語、連鎖式、被動式などの文法事項を習得し短い文章が訳せる。 2) 作文 既習の文法事項を利用し、自分及び身の回りのことについて記述できる。 3) 聴力 基本的単語が聞き取れ、ゆっくり読まれた簡単な文が理解できる。 4) 発音 コミュニケーションのための極めて初歩的な会話(自己紹介、挨拶、名前を聞く)などができる。 1)～4)は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価対象としない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| リスニングクラスでは、可能な限りネイティブスピーカーを配し、文法クラスの半分の人数で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音を繰り返し練習していく。文法については講義形式を基本とし、ドリルで練習問題をこなすことで、知識の定着を図る。 | | | |
| (1) 語法 ・助動詞・介詞 ・各種補語の用法 ・処置式 ・使役と受身 ・重文 | | | |
| (2) 会話 ・食事 ・郵便局 ・日本の習慣の紹介など | | | |
| (3) 作文 ・自分自身や身の回りのことについて、中国語の文章でまとめる。 | | | |
| 授業は対面で行う。 | | | |
| 【自学自習のためのアドバイス】 授業範囲の音声聞き単語を確認する(1.5時間) 音読の練習及び練習・ドリル問題の解答(3.0時間) 中国語作文課題(1.5時間) | | | |
| 教科書・参考書等 高橋明郎・王維・毛勇編「漢語 会話と語法」白帝社。 | | | |

長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。
なお、2020年度にこの科目を履修した者は、ドリルのみ教員を通じ購入し、2020年度のものを使用することを認める。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次（編入は3年次）の学生のみ受講できる。基礎ⅡはⅠに連続したするカリキュラムであり、Ⅰを受講せずにⅡを受講できない。再履修の学生は予め後期開始前、指定する時期までに履修願を提出してクラス指定を受けること。

| | | | |
|--|-------------------------|---------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 045208) 中国語Ⅱ (4)ロ Chinese II 中国語Ⅱ Chinese(Ⅱ) | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 後期月3,木2 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 中国語 | 提供部局:大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 グループワーク | 単位数 2 | |
| 担当教員名 張 蕾, 李 佳坤 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 90分×15回+自学学習(準備学習15時間+事後学習30時間+課題学習15時間) | | | |
| 授業の概要 この授業では、中国語Ⅰ(前期)において身につけた基礎学力をもとに様々なトピックにまつわる平易な会話文及び文章を読みながら、初級中国語の基本的な文法項目を学習する。口頭・聴解・読解・作文の学習活動を通して総合的なコミュニケーション能力の向上に努めていく。 | | | |
| 授業の目的 中国語コミュニケーション能力の定着のため、発音という最初で最大の難関を克服した学生の皆さんに、中国語で相手の意思を理解し、自分自身の意思を相手に伝えることの楽しさを体現してもらうのがこの授業の目的である。またこの学期に学習する文法事項は中国語独特のものが多く、中国語文読解・作成などの作業の基盤を身につける。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 1) 語法 各種補語、連鎖式、被動式などの文法事項を習得し短い文章が訳せる。 2) 作文 既習の文法事項を利用し、自分及び身の回りのことについて記述できる。 3) 聴力 基本的単語が聞き取れ、ゆっくり読まれた簡単な文が理解できる。 4) 発音 コミュニケーションのための極めて初歩的な会話(自己紹介、挨拶、名前を聞く)などができる。 1)～4)は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 中間と期末の2回の試験を、学年共通問題で試験を実施する。これにレポートや小テストの点を加味する。判定はクラスごとではなく学年の順位に基づき行う。 外国語の学習では、授業時間内の練習は重要である。欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は受講しなかったものとする。また指示された課題を未提出の場合は、成績評価対象としない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| リスニングクラスでは、可能な限りネイティブスピーカーを配し、文法クラスの半分の人数で、日常会話を覚えていく過程の中で、発音を繰り返し練習していく。文法については講義形式を基本とし、ドリルで練習問題をこなすことで、知識の定着を図る。 | | | |
| (1) 語法 ・助動詞・介詞 ・各種補語の用法 ・処置式 ・使役と受身 ・重文 | | | |
| (2) 会話 ・食事 ・郵便局 ・日本の習慣の紹介など | | | |
| (3) 作文 ・自分自身や身の回りのことについて、中国語の文章でまとめる。 | | | |
| 授業は対面で行う。 | | | |
| 【自学自習のためのアドバイス】 授業範囲の音声聞き単語を確認する(15時間) 音読の練習及び練習・ドリル問題の解答(30時間) 中国語作文課題(15時間) | | | |
| 教科書・参考書等 高橋明郎・王維・毛勇編「漢語 会話と語法」白帝社。 長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。 なお、2020年度にこの科目を履修した者は、ドリルのみ教員を通じ購入し、2020年度のものを使用すること | | | |

を認める。

オフィスアワー 非常勤の教員のオフィスアワーについては、授業後の時間を利用して欲しい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

クラスは学部別ではないので掲示に注意すること。この講義は1年次（編入は3年次）の学生のみ受講できる。基礎ⅡはⅠに連続したするカリキュラムであり、Ⅰを受講せずにⅡを受講できない。再履修の学生は予め後期開始前、指定する時期までに履修願を提出してクラス指定を受けること。

| | | | |
|---|-------------------------|--------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:045301) 中国語Ⅲa イ Chinese Ⅲa 中国語Ⅲ ChineseⅢ | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 前期月2 | 対象年次 2～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 中国語 | 提供部局:大教センター DPコード:abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 グループワーク | 単位数 1 | |
| 担当教員名 胡 継民 | 関連授業科目 中国語Ⅲ b | | |
| | 履修推奨科目 中国語Ⅲ b | | |
| 学習時間 90分×15回+自学学習 | | | |
| 授業の概要 中国語Ⅰ、Ⅱで学習した知識を踏まえて、学習ポイントを押さえながら会話文と関連する短文の閲読、問題のトレーニングなどを通して新しい表現を学習し、実用的なコミュニケーション(聞く、話す、読む、書く)能力を養成する。 | | | |
| 授業の目的 初級の文法を復習しながら、中級レベルに必要な文法や語彙を習得し、場に応じた会話および関連する短文の閲読などによって、総合的な中国語コミュニケーション能力を高める。中国文化・中国人の生活習慣などに対する理解を深める。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 1、初級～中級レベルに必要な語彙や文法が習得できる。 2、実践的な会話を通じて、コミュニケーション能力を身につける。 3、辞書を引いて中国語の短文読解することができる。 4、中国文化などに対して理解できる。 1～4は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 出席、授業への参加、宿題及び定期試験により総合的に評価する。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 予習復習が必要であり、与えられた課題をしっかりと準備して授業に臨むこと。 | | | |
| 第1回 入学式の日 第2回 食事に誘う 第3回 ラーメン屋さんの中で 第4回 何を食べようか 第5回 中国語の何が難しい? 第6回 夏休みはどうする? 第7回 中間試験 第8回 中国映像鑑賞 第9回 このワンピース、似合う? 第10回 具合が悪いの? 第11回 日本の電車はほんとうに静か 第12回 ちょっと休みましょう 第13回 メリークリスマス 第14回 ますます日本が好きになった 第15回 まとめ 学生の理解程度によって内容や進度を変更することがあります。 この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては一部の授業回または全ての授業回を遠隔へ変更する可能性があります。 | | | |
| 教科書・参考書等 陳淑梅、胡興智、劉湧氷著 『もっと話そう!異文化おもしろ体験 中級中国語』朝日出版社 2021年1月31日 初版発行 定価(本体2,200円+税) 生協で購入すること | | | |
| オフィスアワー 火曜日14:00～16:00 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 中国語Ⅰ、Ⅱを履修し、そのうち2単位以上修得した者のみ履修できる(中国語検定試験で3級以上に合格した者はその限りではない。)必ず中日・日中辞書を持参すること。 | | | |

| | | | |
|--|-------------------------|--------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:045302) 中国語Ⅲa Chinese Ⅲa 中国語Ⅲ ChineseⅢ | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 前期月2 | 対象年次 2～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 中国語 | 提供部局:大教センター DPコード:abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 グループワーク | 単位数 1 | |
| 担当教員名 張 蕾 | 関連授業科目 中国語Ⅲ b | | |
| | 履修推奨科目 中国語Ⅲ b | | |
| 学習時間 90分×15回+自学学習 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 中国語Ⅰ、Ⅱで学習した知識を踏まえて、学習ポイントを押さえながら会話文と関連する短文の閲読、問題のトレーニングなどを通して新しい表現を学習し、実用的なコミュニケーション(聞く、話す、読む、書く)能力を養成する。 | | | |
| 授業の目的 | | | |
| 初級の文法を復習しながら、中級レベルに必要な文法や語彙を習得し、場に応じた会話および関連する短文の閲読などによって、総合的な中国語コミュニケーション能力を高める。中国文化・中国人の生活習慣などに対する理解を深める。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1、初級～中級レベルに必要な語彙や文法を習得する。 2、実践的な会話を通じて、コミュニケーション能力を身につける。 3、辞書を引いて中国語の短文読解することができる。 4、中国文化などに対して理解できる。 <p>1)～4)は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。</p> | | | |
| 成績評価の方法と基準 | | | |
| 出席、授業への参加、宿題及び定期試験により総合的に評価する。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 予習復習が必要であり、与えられた課題をしっかりと準備して授業に臨むこと。 | | | |
| 第1回 入学式の日 第2回 食事に誘う 第3回 ラーメン屋さんの前で 第4回 何を食べようか 第5回 中国語の何が難しい？ 第6回 夏休みはどうする？ 第7回 中間試験 第8回 中国映像鑑賞 第9回 このワンピース、似合う？ 第10回 具合が悪いの？ 第11回 日本の電車はほんとうに静か 第12回 ちょっと休みましょう 第13回 メリークリスマス 第14回 ますます日本が好きになった 第15回 まとめ | | | |
| 学生の理解程度によって内容や進度を変更することがあります。 | | | |
| この科目は全回対面授業を行います。なお状況によってはすべてまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。 | | | |
| 教科書・参考書等 | | | |
| 陳淑梅、胡興智、劉湧氷著 『もっと話そう！ 異文化おもしろ体験 中級中国語』朝日出版社 2021年1月31日 初版発行 定価(本体2,200円+税) 生協で購入すること | | | |
| オフィスアワー 毎回授業直後(月曜日2限目直後) | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ | | | |
| 中国語Ⅰ、Ⅱを履修し、そのうち2単位以上修得した者のみ履修できる(中国語検定試験で3級以上に合格した者はその限りではない。)必ず中日・日中辞書を持参すること。 | | | |

| | | | |
|--|------------------------------------|--|--|
| ナンバリングコード B2CHN-abcG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:045303) 中国語Ⅲbイ Chinese Ⅲb 中国語中級講読 Chinese Reading | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 前期木3 | 対象年次 2～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 中国語 | 提供部局 :大教センター DPコード :abc | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 グループワーク | 単位数 1 | |
| 担当教員名 緒方 宏海 | 関連授業科目 中国語Ⅲa、中国語会話Ⅲ | | |
| | 履修推奨科目 中国語Ⅲa、中国語会話Ⅲ | | |
| 学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 | | | |
| 授業の概要 中国語初級を履修した学生が更に力をつけるために学んでいく科目の一つが、読解の学習である。この授業では1年次において身につけた基礎学力をもとに、初級段階で学習した発音と文法の復習を行いながら、中級段階の文法事項を学び、文章読解力の向上に努めていく。 | | | |
| 授業の目的 中国語を一年間学習した学生を対象とする。これまで学んだ中国初級の文法を基に、纏まった文章を読解しながら、新しい中国語の表現を学ぶ。また中国語検定試験にも対応する。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 1. ある程度まとまった文章の構造を理解しつつ、長文読解ができるようにすること。 2. 中国語検定3級を視野に入れた中国語能力を身につけること。 3. 中国社会と文化に対する理解を深めること。 4. 学生が自信を持って中国語表現できるようになることを目標とする。 5. 異文化について開かれた態度をとれるようになるとともに、一つ以上の外国語において、読み、書き、聞き、話すための基礎的な能力を身につける。 1～5は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応 | | | |
| 成績評価の方法と基準 平常点(授業での発音、小テストなどを評価に加える)40%+定期試験60%。 語学は授業で実践学習することにより成績が向上する。遅刻や欠席なく、出席堅持すること。単位を取得するためには、3分の2以上の出席が必要である。3分の1以上欠席すると定期試験は受けられません。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 第1回 初級中国語の確認・復習 第2回 第1課 自我介绍 第3回 「的」の用法・練習問題 第4回 第2課 我的家庭 第5回 「地」の用法・比較用法 第6回 第3課 互联网 第7回 「疑問詞の呼応表現」・「即使，也」・練習問題 第8回 復習 第9回 第4課 约会 第10回 「着」の用法・複合方向補語・動詞の重ね型の完了形 第11回 第5課 温泉旅行 第12回 結果補語・存現文・練習問題 第13回 第6課 我的爱好 第14回 可能補語・「只要，就」・練習問題 第15回 総括練習と質疑応答 ※コロナの感染状況次第で、遠隔授業か対面授業となる。 | | | |
| 教科書・参考書等 ★教科書：『2冊めの中国語《講読クラス》』白水社CD付本体2,300円+税。劉穎他著 白水社劉穎・柴森・小澤正人著2012年。生協で購入すること。 ★辞書：長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。講談社『中日辞典』と小学館『中日辞典』を推薦する。 | | | |
| オフィスアワー 木曜日5時限・南キャンパス2号館3階緒方研究室。 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 予習、復習が必要です。単語量を増やす努力をすること。 | | | |

| | | | |
|--|-------------------------|--------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2CHN-abcG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:045304) 中国語Ⅲb Chinese Ⅲb 中国語中級講読 | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 前期木3 | 対象年次 2～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 中国語 | 提供部局:大教センター DPコード:abc | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 グループワーク | 単位数 1 | |
| 担当教員名 劉 曉君 | 関連授業科目 中国語Ⅲa、中国語会話 | | |
| | 履修推奨科目 中国語Ⅲa、中国語会話 | | |
| 学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 中国語初級を履修した学生が更に力をつけるために学んでいく科目の一つが、読解の学習である。この授業では1年次において身につけた基礎学力をもとに、初級段階で学習した発音と文法の復習を行いながら、中級段階の文法事項を学び、文章読解力の向上に努めていく。 | | | |
| 授業の目的 | | | |
| 中国語を一年間学習した学生を対象とする。これまで学んだ中国初級の文法を基に、纏まった文章を読解しながら、新しい中国語の表現を学ぶ。また中国語検定試験にも対応する。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 1. ある程度まとまった文章の構造を理解しつつ、長文読解ができるようにすること。 2. 中国語検定3級を視野に入れた中国語能力を身につけること。 3. 中国社会と文化に対する理解を深めること。 4. 学生が自信を持って中国語表現できるようになることを目標とする。 | | | |
| 1～4は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 | | | |
| 平常点(授業での発音、小テストなどを評価に加える)40%+定期試験60%。 語学は授業で実践学習することにより成績が向上する。遅刻や欠席なく、出席堅持すること。単位を取得するためには、3分の2以上の出席が必要である。3分の1以上欠席すると定期試験は受けられません。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。 | | | |
| 第1回 初級中国語の確認・復習 第2回 第1課 自我介绍 第3回 「的」の用法・練習問題 第4回 第2課 我的家庭 第5回 「地」の用法・比較用法 第6回 第3課 互联网 第7回 「疑問詞の呼応表現」・「即使,也」・練習問題 第8回 復習 第9回 第4課 约会 第10回 「着」の用法・複合方向補語・動詞の重ね型の完了形 第11回 第5課 温泉旅行 第12回 結果補語・存現文・練習問題 第13回 第6課 我的爱好 第14回 可能補語・「只要,就」・練習問題 第15回 総括練習と質疑応答 | | | |
| 学生の理解程度によって内容や進度を変更することがあります。 | | | |
| 教科書・参考書等 | | | |
| ★教科書;『2冊めの中国語《講読クラス》』白水社CD付本体2,300円+税。劉穎他著 白水社劉穎・柴森・小澤正人著2012年。生協で購入すること。 ★辞書:長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。講談社『中日辞典』と小学館『中日辞典』を推薦する。 | | | |
| オフィスアワー 非常勤なので、時間等は個別相談で決める。 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ | | | |
| 予習、復習が必要です。単語量を増やす努力をすること。 | | | |

| | | | |
|---|--|--|--|
| ナンバリングコード B2CHN-abcG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:045305) 中国語Ⅲbハ Chinese Ⅲb 中国語中級講読 Chinese Reading | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 前期木3 | 対象年次 2～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 中国語 | 提供部局 :大教センター DPコード :abc | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 グループワーク | 単位数 1 | |
| 担当教員名 李 九妹 | 関連授業科目 中国語Ⅲa、中国語会話Ⅲ 履修推奨科目 中国語Ⅲa、中国語会話Ⅲ | | |
| 学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 | | | |
| 授業の概要 中国語初級を履修した学生が更に力をつけるために学んでいく科目の一つが、読解の学習である。この授業では1年次において身につけた基礎学力をもとに、初級段階で学習した発音と文法の復習を行いながら、中級段階の文法事項を学び、文章読解力の向上に努めていく。 | | | |
| 授業の目的 中国語を一年間学習した学生を対象とする。これまで学んだ中国初級の文法を基に、纏まった文章を読解しながら、新しい中国語の表現を学ぶ。また中国語検定試験にも対応する。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 1. ある程度まとまった文章の構造を理解しつつ、長文読解ができるようにすること。 2. 中国語検定3級を視野に入れた中国語能力を身につけること。 3. 中国社会と文化に対する理解を深めること。 4. 学生が自信を持って中国語表現できるようになることを目標とする。 | | | |
| 1～4は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 平常点(授業での発音、小テストなどを評価に加える)40%+定期試験60%。 語学は授業で実践学習することにより成績が向上する。遅刻や欠席なく、出席堅持すること。単位を取得するためには、3分の2以上の出席が必要である。3分の1以上欠席すると定期試験は受けられません。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 第1回 初級中国語の確認・復習 第2回 第1課 自我介绍 第3回 「的」の用法・練習問題 第4回 第2課 我的家庭 第5回 「地」の用法・比較用法・練習問題 第6回 第3課 互联网 第7回 「疑問詞の呼応表現」・「即使,也」・練習問題 第8回 復習 第9回 第4課 约会 第10回 「着」の用法・複合方向補語・動詞の重ね型の完了形・練習問題 第11回 第5課 温泉旅行 第12回 結果補語・存現文・練習問題 第13回 第6課 我的爱好 第14回 可能補語・「只要,就」・練習問題 第15回 総括練習と質疑応答 学生の理解程度によって内容や進度を変更することがあります。 授業は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。 | | | |
| 教科書・参考書等 ★教科書:『2冊めの中国語《講読クラス》』白水社CD付本体2,300円+税。劉穎他著 白水社劉穎・柴森・小澤正人著2012年。生協で購入すること。 ★辞書:長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。講談社『中日辞典』と小学館『中日辞典』を推薦する。 | | | |
| オフィスアワー 木曜日3時限前後 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 予習、復習が必要です。単語量を増やす努力をすること。 | | | |

| | | | |
|---|-------------------------|--------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:045501) 中国語会話Ⅲ Chinese Conversation Ⅲ 中国語会話Ⅲ chinese Conversation Ⅲ | 科目区分 コミュニケーション 科目 | 時間割 2021年度 前期月2 | 対象年次 2～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 中国語 | 提供部局:大教センター DPコード:abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 グループワーク | 単位数 1 | |
| 担当教員名 李 佳坤 | 関連授業科目 履修推奨科目 中国語Ⅲ b | | |
| 学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 | | | |
| 授業の概要 この授業は、毎回一つのテーマを決め、それをめぐって二人や、グループで会話の練習をします。会話練習がスムーズに進められるために、必要な単語や文型を指示に従って予習してもらいます。また、語彙を増やし、聞く・話す能力をアップさせるために、読み取れた短文の内容で会話したりもします。さらに中国語検定試験(4・3級)を受けるためのヒヤリングの練習をします。 | | | |
| 授業の目的 一年生のときに学習した中国語の内容を見て分かりますが、聞いて分からない・話せないということを克服し、流暢に日常会話ができることを目的とし、中国への一人旅でも困らない程度の中国語会話を身につけます。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 中国への一人旅のできる日常会話能力を身につけます。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 出席・授業中の練習・期末会話テストなどを総合して判断します。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 次のテーマに沿って会話の練習をします。 第1回 自己紹介 第2回 家族 第3回 一日 第4回 復習する 第5回 学校生活 第6回 夏休み 第7回 趣味 第8回 復習 第9回 小テスト 第10回 買い物する 第11回 レストランにて 第12回 道を聞く 第13回 復習 第14回 電話を掛ける 第15回 病院 第16回 会話テスト この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。 | | | |
| 教科書・参考書等 毎回のプリント配布 * 日中辞典持参 * 一年時に使った「漢語 語法和会話」を持参 | | | |
| オフィスアワー 月曜日 2校時前後 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 間違いを気にせず積極的に会話の練習をしてほしい。 | | | |

| | | | |
|--|----------------------|--------------------------|---|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-5N-Lg1 授業科目名 (時間割コード:045601) 中国語速修 I Intensive Chinese I Intensive Chinese I | 科目区分 特別教育プログラム | 時間割 2021年度 2Q水3, 金4 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 中国語 | 提供部局:大教センター DPコード:abx | 対象学生 特プロ履修学生のみ 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム |
| | 授業形態 講義 グループワーク | 単位数 1 | |
| 担当教員名 胡 継民 | 関連授業科目 中国語 I | | |
| | 履修推奨科目 中国語 I | | |
| 学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間) | | | |
| 授業の概要 | | | |
| この授業はグローバル人材育成プログラム一年次の特別授業である。中国留学を目指す学生を対象に、中国語の基礎知識を前倒して学習し、基礎的な能力(聞く、話す、読む、書く)を総合的に養成する。 | | | |
| 授業の目的 | | | |
| この授業では、まず次の高度なトレーニングに接続するため、初級の内容を前倒して学ぶ。基礎文法事項を中心に、簡単な日常会話や特定場面に使う中国語表現などを習得し、初級程度の中国語コミュニケーション能力(聞く、話す、読む、書く)を身に付ける。中国文化や社会事情などについても理解できるようになる。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 1. 発音 正しい発音(ピンインと声調記号)と普通なリズムで簡単な日常会話ができる。 2. 聴力 基本的な単語が聞き取れ、ゆっくり読まれた簡単な文が理解できる。 3. 語法 学習した初級文法事項を正しく使える。 4. 作文 既習の文法事項を利用し、簡単な文章が書ける。 1～4は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 | | | |
| 出席、学習態度と自主学習の状況及び中間試験と期末試験などで総合的に評価する。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 授業は週2回行う。学習進度が早く学習内容も多いため、予習復習をしっかりとすること。また留学に必要な語学力に達成するには、毎日の自主学習が不可欠。プログラム専用学習室での自律学習を強く薦める。毎回の予習復習時間については授業中に指示する。 | | | |
| (1) 会話 特定場面での会話(学校生活、家族、留学、郵便局、冬休みなど) | | | |
| (2) 語法 介詞・各種補語(方向補語・結果補語・可能補語・程度と状況補語)など | | | |
| この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては一部の授業回または全ての授業回を遠隔へ変更する可能性があります。 | | | |
| 教科書・参考書等 | | | |
| 高橋明郎・王維・毛勇編『漢語 会話と語法』 白帝社 生協で購入 | | | |
| オフィスアワー 火曜日14:00～16:00 他の時間を希望する場合は随時相談してください。 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ | | | |
| グローバル人材育成香川大学ネクストプログラム(中国語コース)受講生のみ受講できる。 | | | |

| | | | | |
|---|--|--|--|--|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-5N-Ex2 授業科目名 (時間割コード:045602) 中国語速修Ⅱ Intensive Chinese II Intensive Chinese II | 科目区分 特別教育プログラム | 時間割 2021年度 後期水2, 金4 | 対象年次 1～ | |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 中国語 | 提供部局 : 大教センター DPコード : abx | 対象学生 特プロ履修学生のみ 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム | |
| | 授業形態 演習 | 単位数 2 | | |
| 担当教員名 胡 継民 | 関連授業科目 中国語速修Ⅲ、中国語応用演習Ⅰ 履修推奨科目 中国語速修Ⅲ、中国語応用演習Ⅰ | | | |
| 学習時間 講義90分×30回 (準備学習30時間+事後学習30時間) | | | | |
| 授業の概要 この授業はグローバル人材育成プログラム一年次の特別授業で、速修Ⅰで習った基礎知識を踏まえ、高度なトレーニングを通して中国語の総合的な実力アップを目指す。中国文化や社会事情、大学事情などについても授業中に紹介します。 | | | | |
| 授業の目的 最初に重文など、初級の最終段階としての文法事項を学ぶ。その後色んな場面に使う中国語の会話と関連文章を学習し、話す、聞く、読む、書くなどのトレーニングを通して、中級レベルの中国語の実力を身に付ける。HSK (中国政府公認の中国語検定試験) 合格に必要な基本知識が習得できる。また中国文化や中国社会などについての理解を深める。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 1. 既習表現を用いて簡単な意思疎通ができる。 2. 簡単な文が聞き取れる。 3. 短文を読んで意味を正しく理解できる。 4. 既習した文法事項を用いて短い作文ができる。 5. HSK4 級に合格できる能力を習得できる。 6. 中国文化、習慣、社会事情などについて理解できる。 1～6 は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 | | | | |
| 成績評価の方法と基準 出席、学習態度と課題提出及び中間試験と期末試験などで総合的に評価する。 | | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | | |
| 授業は週2回行う。テキストのほかに補充プリントを使う。進度が早く学習内容も多いため、毎回必ず予習復習をしっかりとすること。また留学に必要な語学力に達成するには、毎日の自主学習が不可欠。留学プログラム専用学習室での自律学習を強く薦める。毎回の予習復習時間については授業中に指示する。 | | | | |
| 第1週～第3週 “把”字文・使役と受身・重文など 第4週 談家庭 第5週 談方位 第6週 談時間 第7週 談愛好 第8週 談天気 第9週 談体育 第10週 談旅游 第11週 談飲食 第12週 談交通 第13週 談看病 第14週 談购物 第15週 談节日 | | | | |
| 学生の理解程度によっては内容や進度を変更することがあります。 | | | | |
| この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては一部の授業回または全ての授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。 | | | | |
| 教科書・参考書等 教科書: 楊 曉安著 「現代中国アラカルト」 郁文堂 ¥2,500円+税 なお、中国語速修Ⅰの教科書も併せて使用する。 参考書: 随時プリント配布する。 | | | | |
| オフィスアワー 火曜日14:00～16:00 他の時間に希望する場合は随時相談してください。 | | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ グローバル人材育成香川大学ネクストプログラム(中国語コース)に参加し、中国語速修Ⅰを終了した学生のみ受講できる。 | | | | |

| | | | | |
|---|--|--|--|--|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-5N-Ex1 授業科目名 (時間割コード: 045603) 中国語速修Ⅲ Intensive Chinese III Intensive Chinese III | 科目区分 特別教育プログラム | 時間割 2021年度 後期月4 | 対象年次 1～ | |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 中国語 | 提供部局 : 大教センター DPコード : abx | 対象学生 特プロ履修学生のみ 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム | |
| | 授業形態 演習 | 単位数 1 | | |
| 担当教員名 胡 継民 | 関連授業科目 中国語速修Ⅱ、中国語応用演習Ⅰ 履修推奨科目 中国語速修Ⅱ、中国語応用演習Ⅰ | | | |
| 学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間) | | | | |
| 授業の概要 この授業はグローバル人材育成プログラム一年次の特別授業である。中国の大学が対外教育に使われているオリジナル教材を使用し、中国語の実際のコミュニケーション能力を養うことを目的としている。口語表現、閲読理解、文型練習、選択問題などさまざまな高度なトレーニングを通して中国語の総合的な実力アップを目指す。 | | | | |
| 授業の目的 この授業は中国留学に必要な中国語コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。現地のオリジナル教材を使用し実用会話と短文の読み書き練習によってさまざまな中国語表現を習得する。数多くの練習問題を通して中国語の語彙力、理解力と応用能力を高める。また中国文化や中国社会についての理解を深める。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 1. ピンインの付いていない文章が読める。 2. 新語の意味を中国語で理解でき、ある程度説明できる。 3. 既習知識を用いてある程度の意思疎通ができる。 4. 与えられた課題を中国語で書ける。 5. 文章を読んで内容が正しく理解できる。 1～5は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 | | | | |
| 成績評価の方法と基準 出席、学習態度と自主学習の状況及び中間試験と期末試験などで総合的に評価する。 | | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | | |
| 発音や新語の意味調べなど予習が必須である。与えられた課題をしっかりと準備して授業に臨むこと。また留学に必要な語学力に達成するには、毎日の自主学習が不可欠。留学プログラム専用学習室での自律学習を強く薦める。毎回の予習復習時間については授業中に指示する。 | | | | |
| 第1週～第2週 参観人民广场 第3週～第4週 去中国朋友家做客 第5週～第6週 在邮局 第7週～第8週 皮尔病了 第9週 期中考试 第10週～第11週 找对象 第12週～第13週 金项链 第14週～第15週 周末生活 | | | | |
| 学生の理解程度によっては内容や進度を変更することがあります。 | | | | |
| この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては一部の授業回または全ての授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。 | | | | |
| 教科書・参考書等 毎回プリント配布する。 | | | | |
| オフィスアワー 火曜日14:00～16:00 他の時間に希望する場合は随時相談してください。 | | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ グローバル人材育成香川大学ネクストプログラム(中国語コース)受講生は必ず受講すること。 | | | | |

| | | | | |
|---|------------------------------------|--|--|--|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-5N-Lg1 授業科目名 (時間割コード:045604) 中国語上級「聴解」 Chinese Listening Chinese Listening | 科目区分 特別教育プログラム | 時間割 2021年度 前期金5 | 対象年次 2～ | |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 中国語 | 提供部局 : 大教センター DPコード : abx | 対象学生 特プロ履修学生のみ 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム | |
| | 授業形態 講義 グループワーク | 単位数 1 | | |
| 担当教員名 胡 継民 | 関連授業科目 中国語上級写作、中国語応用演習Ⅱ | | | |
| | 履修推奨科目 中国語上級写作、中国語応用演習Ⅱ | | | |
| 学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間) | | | | |
| 授業の概要 この授業はグローバル人材育成プログラム2年次の特別授業で、中国語リスニング能力の養成を重点に置いている。HSK検定試験に対応するトレーニングを行う。新しい語彙と表現及び中国語特有な言い回しを学習しながら、繰り返して聞く練習を通して中国留学に必要なリスニング能力を養成する。 | | | | |
| 授業の目的 この授業は中国留学に必要なリスニング能力を身につけることを目的とする。HSKリスニング問題のトレーニングや動画、ニュースなどの生の中国語を聞くことを通して、中国語のリスニング能力のアップを目指す。また授業中に会話時間も取り入れ、中国語でスピーチする能力の養成にも力を入れる。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 1. 普通スピードの中国語日常会話が聞き取れる。 2. 聞いた内容や背景が正しく理解できる。 3. 短い文章を聞いて内容が理解できる。 4. HSK 4級合格に必要なリスニング能力が達成できる。 1～4は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 | | | | |
| 成績評価の方法と基準 出席、学習態度と自主学習の状況及び中間試験と期末試験などで総合的に評価する。 | | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | | |
| 予習復習が必須。毎回予習範囲を指示するが、必ず新語の発音や意味を調べて授業に臨むこと。また学習した表現や固有の言いまわしを工夫して定着を図ること。留学に必要な語学力に達成するには、毎日の自主学習が不可欠。留学プログラム専用学習室での自律学習を強く薦める。毎回の予習復習時間については授業中に指示する。 | | | | |
| 第1週～第4週 | センテンスと会話の聞き取り | | | |
| 第5週～第7週 | 短文の聞き取り | | | |
| 第8週 | 期中考試 | | | |
| 第9週～第11週 | やや長い文の聞き取り | | | |
| 第12週～第15週 | 動画鑑賞での聞き取り | | | |
| 学生の理解程度によっては内容や進度を変更することがあります。 | | | | |
| この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては一部の授業回または全ての授業回を遠隔へ変更する可能性があります。 | | | | |
| 教科書・参考書等 毎回プリント配布 | | | | |
| オフィスアワー 火曜日14:00～16:00 他の時間を希望する場合は随時相談してください。 | | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ グローバル人材育成香川大学ネクストプログラム(中国語コース)受講生は必ず受講すること。 | | | | |

| | | | |
|--|---|--|--|
| <p>ナンバリングコード B2CHN-abXG-5N-Lx1 授業科目名 (時間割コード:045606) 中国語上級「読解」 Chinese Reading Chinese Reading</p> | <p>科目区分 特別教育プログラム</p> <p>水準 学士:基礎科目 分野 中国語</p> <p>授業形態 講義</p> | <p>時間割 2021年度 前期月2</p> <p>提供部局: 大教センター DPコード: abX</p> <p>単位数 1</p> | <p>対象年次 3～</p> <p>対象学生 特プロ履修学生のみ 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム</p> |
| <p>担当教員名 高橋 明郎</p> | <p>関連授業科目 中国語上級 「聴解」、中国語上級 「写作」、中国語応用演習Ⅲ</p> | | |
| <p>履修推奨科目 アジア文化論 アジア経済論 中国文化論</p> | | | |
| <p>学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習45時間+事後学習15時間) 読解の授業であるが、テキストは音読するので、発音を事前に確認する時間も要する。</p> | | | |
| <p>授業の概要 この講義では、中国語で書かれた幾つかのジャンルにわたる入門書、専門書、論文を使って、書面語のパターンに習熟させる。また資料を音読させることにより、多くの専門用語の発音にも慣れさせる。</p> <p>授業の目的 この授業は、中国語コミュニケーション能力(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)の中で特に読解能力の育成に重点を置きます。ネクストプログラムでは、留学先で専門教育の授業を受ける。その際、教科書はもとより、資料となる中国語文をある程度の以上の速度で読みこなしていかなければならない。この授業を通して、多量の中国語文を読むことに慣れると同時に、音読を通して、漢字=中国語音の転換にできるだけ辞書を頼らないですむようになる。</p> | | | |
| <p>到達目標</p> | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1 中国語の原文をある程度以上の速度で理解できる。 2 報道文・論文などで頻出する語句を習得する。 3 中国語の文章をなるべく辞書の補助なく音読できる。 | | | |
| <p>成績評価の方法と基準 講義で扱う資料の読解力を講義時間にその都度チェックする。 試験も行う。(試験25%)</p> | | | |
| <p>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p> | | | |
| <p>授業時間に次回使用する文章を渡すので、下記の準備を行った上で授業に出ること。授業では交互に音読し訳す作業を行う。 題材は下の予定である。</p> <p>第1回 授業資料の配付と授業の進め方に関する解説 第2回～第6回 説明文・教科書 第7回～第11回 学術書 12回～15回 論文</p> <p>なお、この授業は対面で行う。</p> <p>【自学自習のためのアドバイス】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 指示された文章を訳出し、文章化しておく (20時間) 2) 指示された文章を音読できるように、発音が多分らない、もしくは不確かな字について 確認をしておく。(25時間) 2) については、初めは時間を取られるが、次第にスピードアップできる筈である。 3) 誤った点を、文法事項に照らして確認する。(15時間) | | | |
| <p>教科書・参考書等 TBA。 教材自体はこちらで用意するので購入する必要はない。</p> | | | |
| <p>オフィスアワー 月曜9:50～10:20</p> | | | |
| <p>履修上の注意・担当教員からのメッセージ ネクストプログラムの3年次生は必ず受講すること。指定された予習を必ず行っておくこと。 やむをえず欠席する場合は、予め担当教員に連絡を行うこと。テストは行わないが、そのかわり欠席が4回を超えた場合は、成績評価の対象としない。</p> | | | |

| | | | |
|---|----------------------|--------------------------|---|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-5N-Lx1 授業科目名 (時間割コード:045607) 中国語応用演習 I Chinese for HSK I 中国語応用演習 I Chinese for HSK I | 科目区分 特別教育プログラム | 時間割 2021年度 後期木3 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 中国語 | 提供部局:大教センター DPコード:abx | 対象学生 特プロ履修学生のみ 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム |
| | 授業形態 講義 | 単位数 1 | |
| 担当教員名 緒方 宏海 | 関連授業科目 中国語全般 | 履修推奨科目 中国語速習 I 中国語速習 II | |
| 学習時間 授業90分×15回+自学自習 | | | |
| 授業の概要 HSK(漢語水平考試)は中国政府公認であり、国際的に通用する公的資格である。この授業はHSK3級の受験を目指す学生のための授業である。第一学年で習得した中国語の基礎文法を踏まえて、HSK3級で求められる中国語の基礎文法項目を徹底的に整理・攻略しながら、出題問題を素材に授業で解答作業を行う。 | | | |
| 授業の目的 中国の大学へ留学する際に要求されるHSK成績の向上を目指しながら、「読む」「書く」「聞く」「話す」の四方面にわたってバランスのとれた総合的基礎力を完成させるとともに、映画、ニュースなど多様なジャンルも活用して、中国語のレベルアップを実現する。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 1. HSK3級に合格できる中国語力を身につける。 2. 読み、聞き、書くことができるとともに、中国語を全般に渡って自主的に運用できる。 3. 日常の幅広い話題について、ネイティブと簡単なコミュニケーションをすることができる。 4. 異文化について開かれた態度をとれるようになるとともに、一つ以上の外国語において、読み、書き、聞き、話すための基礎的な能力を身につける。 1～4は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応 | | | |
| 成績評価の方法と基準 平常点40%、中間・期末の定期試験60%により評価を行う。これらの総合評価により60%以上を合格とする。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 演習形式で行う 第1週 ガイダンス・基礎学力レベルチェック 第2週 HSK問題演習—リスニング 第3週 HSK問題演習—リスニング 第4週 HSK問題演習—リスニング ～ 第5週 模擬テスト(1) 解答、説明など 第6週 HSK問題演習—読解 第7週 HSK問題演習—読解 第8週 HSK問題演習—読解 ～ 第9週 模擬テスト(2) 解答、説明など 第10週 HSK問題演習—リスニング 第11週 HSK問題演習—リスニング 第12週 HSK問題演習—読解 ～ 第13週 模擬テスト(3) 解答、説明など 第14週 全体の復習・まとめ 第15週 期末試験 | | | |
| 【予習へのアドバイス】 この授業について1日1時間以上(週7時間以上、他の中国語授業およびその予習時間は含めない)の自学自習を行うことが望ましい。授業時間だけの学習では、目標とする中国語を獲得するには不十分であることを理解し、語彙リスト、会話や文章の聞き取り等、留学を念頭においた中国語学習を毎日の生活の中で習慣づけること。※コロナの感染状況次第で、遠隔授業か対面授業となる。 | | | |
| 教科書・参考書等 教材はプリントで配布。 | | | |
| オフィスアワー 火曜日4時限・南キャンパス2号館3階緒方研究室 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ グローバル人材育成香川大学ネクストプログラム(中国語コース)受講生は必ず受講すること。 上記以外の学生についても1年次から受講可能である。ただし、受講希望者が20名を越える場合、履修制限を設ける。 | | | |

| | | | |
|--|--|---|--|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-5N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 045608) 中国語応用演習Ⅱ Chinese for HSKⅡ 中国語応用演習Ⅱ Chinese for HSKⅡ | 科目区分 特別教育プログラム 水準 学士:基礎科目 分野 中国語 授業形態 講義 | 時間割 2021年度 前期火5 提供部局 : 大教センター DPコード : abx 単位数 1 | 対象年次 2～ 対象学生 特プロ履修学生のみ 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム |
| 担当教員名 緒方 宏海 | 関連授業科目 中国語速習Ⅲ、中国語上級「聴解」、 中国語上級「写作」A 履修推奨科目 中国語全般 | | |
| 学習時間 授業90分×15回＋自学自習 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>HSK(漢語水平考試)は中国政府公認の試験であり、国際的に通用する公的資格である。この授業はHSK4級の受験を目指す学生のための授業である。第一、二学年で習得した中国語の基礎文法を踏まえて、HSK4級で求められる中国語の文法項目を徹底的に整理・攻略しながら、出題問題を素材に授業で解答作業を行う。</p> | | | |
| 授業の目的 | | | |
| <p>中国の大学へ留学する際に要求されるHSK成績の向上を目指しながら、「読む」「書く」「聞く」「話す」の四方面にわたってバランスのとれた総合的基礎力を完成させるとともに、映画、ニュースなど多様なジャンルも活用して、中国語のレベルアップを実現する。</p> | | | |
| 到達目標 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. HSK4級に合格できる中国語力を身につける。 2. 読む、書く、聞く、話すことができるとともに、中国語を全般に渡って自主的に運用できる。 3. 日常の幅広い話題について、ネイティブと簡単なコミュニケーションをすることができる。 4. 異文化について開かれた態度をとれるようになるとともに、一つ以上の外国語において、読み、書き、聞き、話すための基礎的な能力を身につける。 <p>(1～4は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)</p> | | | |
| 成績評価の方法と基準 | | | |
| 平常点40%、中間・期末定期試験60%により評価を行う。これらの総合評価により60%以上を合格とする。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 演習形式で行う | | | |
| 第1週 ガイダンス・基礎学力レベルチェック 第2週 HSK問題演習—リスニング 第3週 HSK問題演習—リスニング 第4週 HSK問題演習—リスニング ～ 第5週 模擬テスト(1) 解答、説明など 第6週 HSK問題演習—読解 第7週 HSK問題演習—読解 第8週 HSK問題演習—読解 ～ 第9週 模擬テスト(2) 解答、説明など 第10週 HSK問題演習—作文 第11週 HSK問題演習—作文 第12週 HSK問題演習—作文 ～ 第13週 模擬テスト(3) 解答、説明など 第14週 全体の復習・まとめ 第15週 期末試験 | | | |
| 【自学自習に関するアドバイス】 | | | |
| <p>この授業について1日1時間以上(週7時間以上、他の中国語授業およびその予習時間は含めない)の自学自習を行うことが望ましい。授業時間だけの学習では、目標とする中国語を獲得するには不十分であることを理解し、語彙リスト、会話や文章の聞き取り等、留学を念頭においた中国語学習を毎日の生活の中で習慣づけること。※コロナの感染状況次第で、遠隔講義が対面となる。</p> | | | |
| 教科書・参考書等 | | | |
| 教材はプリントで配布。 | | | |
| オフィスアワー 火曜日4時限・南キャンパス2号館3階緒方研究室 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ | | | |
| グローバル人材育成香川大学ネクストプログラム(中国語コース)受講生は必ず受講すること。 | | | |

上記以外の学生についても1年次から受講可能である。ただし、受講希望者が20名を越える場合、履修制限を設ける。

| | | | |
|---|---|----------------------------|---|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-5N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 045609) 中国語応用演習Ⅲ Chinese for HSK Ⅲ 中国語応用演習Ⅲ Chinese for HSK Ⅲ | 科目区分 特別教育プログラム | 時間割 2021年度 後期末1 | 対象年次 2～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 中国語 | 提供部局: 大教センター DPコード: abx | 対象学生 特プロ履修学生のみ 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム |
| | 授業形態 講義 | 単位数 1 | |
| 担当教員名 緒方 宏海 | 関連授業科目 中国語速習Ⅲ、中国語上級「聴解」、中国語「写作」A、B 履修推奨科目 中国語科目全般。 | | |
| 学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 | | | |
| 授業の概要 この授業はHSK5級の受験を目指す学生のための授業である。HSK5級の文法問題は長文問題が多く、そのために必要なトレーニングとして掲げねばならないのは、読解と聴解である。文化・経済・政治分野の中国語文献資料を読む聞くことによって、原文読解・聴解能力を向上させると同時に、中国語文法を高いレベルで系統的に整理し学習する。 | | | |
| 授業の目的 中国語文法の総仕上げを行いながら、HSK5級で求められる読解と聴解・作文・コミュニケーション能力の総合的向上をめざす。中国留学に対応できる水準の文章読解・聴解力、および実践的会話力を身につけるとともに、現代中国社会への理解を深めることを目的とする。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 1. HSK5 級に合格できる中国語力を身につける。 2. 留学にあたって現地の大学の講義を受ける際に支障のない中国語能力を身につける。 3. 辞書を使いながら、一般的な中国語の文章を読むことができる。 4. 異文化について開かれた態度をとれるようになるとともに、一つ以上の外国語において、読み、書き、聞き、話すための基礎的な能力を身につける。 1～4 は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応 | | | |
| 成績評価の方法と基準 平常点40%、中間・期末定期試験60%により評価を行う。これらの総合評価により60%以上を合格とする。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 演習形式で行う 第1週 ガイダンス・基礎学力レベルチェック 第2週 HSK問題演習—リスニング 第3週 HSK問題演習—リスニング 第4週 HSK問題演習—リスニング ～ 第5週 模擬テスト(1) 解答, 説明など 第6週 HSK問題演習—読解 第7週 HSK問題演習—読解 第8週 HSK問題演習—読解 ～ 第9週 模擬テスト(2) 解答, 説明など 第10週 HSK問題演習—作文 第11週 HSK問題演習—作文 ～ 第12週 模擬テスト(3) 解答, 説明など 第13週 HSK問題演習—リスニング 第14週 全体の復習・まとめ ～ 第15週 期末試験 【自学自習に関するアドバイス】 この授業について1日1時間以上(週7時間以上、他の中国語授業およびその予習時間は含めない)の自学自習を行うことが望ましい。授業時間だけでの学習では、目標とする中国語を獲得するには不十分であることを理解し、語彙リスト、会話や文章の聞き取り等、留学を念頭にいた中国語学習を毎日の生活の中で習慣づけること。※コロナの感染状況次第で、遠隔か対面となる。 | | | |
| 教科書・参考書等 教材はプリントで配布。 | | | |
| オフィスアワー 火曜日4時限・南キャンパス2号館3階緒方研究室 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ グローバル人材育成香川大学ネクストプログラム(中国語コース)受講生は必ず受講すること。 | | | |

| | | | |
|---|--|--|--|
| ナンバリングコード B2CHN-abxG-5N-Ex1 授業科目名 (時間割コード:045610) 中国語上級「写作」 Chinese Writing Chinese Writing | 科目区分 特別教育プログラム | 時間割 2021年度 後期金5 | 対象年次 2～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 中国語 | 提供部局 : 大教センター DPコード : abx | 対象学生 特プロ履修学生のみ 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム |
| | 授業形態 演習 | 単位数 1 | |
| 担当教員名 胡 継民 | 関連授業科目 中国語上級聴解、中国語応用演習Ⅲ 履修推奨科目 中国語上級聴解、中国語応用演習Ⅲ | | |
| 学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間) | | | |
| 授業の概要 この授業はグローバル人材育成プログラム中国語コース2年次の特別授業で、中国語の作文能力の養成を目的とする。前半はHSK5級の試験対策を行い、HSK5級合格に必要な作文能力を養成する。後半は各種文章の構文や常用表現などを学習し、中国留学時に課題をこなすための作文能力を養成する。 | | | |
| 授業の目的 前半は、HSK5級写作問題の出題パターン、特徴、ポイント等を確認し、問題を解くポイントを押さえる方法を勉強し、攻略トレーニングを通してHSK5合格に必要な作文能力を身につける。後半は説明文、議論文、感想文などの文章の構文や常用表現を学習し、中国留学時に必要な中国語作文能力を養成する。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 正しい語順で中国語の文が書ける。 自分の意思を中国語の文章で正しく伝えられる。 HSK5級写作の合格スコアを取得することができる。 常用表現を使って説明文、議論文、感想文、レポートなどが書ける。 以上は、共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 出席、学習態度と課題の提出および試験などで総合的に評価する。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 毎回予習範囲を指示する。しっかり準備して授業に臨むこと。発音や新語の意味を調べて定着を図ること。留学に必要な語学力に達成するには、毎日の自主学習が不可欠。留学プログラム専用学習室での自律学習を強く薦める。毎回の予習復習時間については授業中に指示する。 第1週～第3週 HSK5級写作 並べ替え問題の対策 第4週～第6週 HSK5級写作 キーワードを用いた作文の対策 第7週～第9週 HSK5級写作 絵を見て作文の対策 第10週: 写自我介绍, 个人小计划 第11週: 介绍人物 第12週: 介绍事物的来源与发展 第13週: 写说明文 第14週: 通过比较评论事物 第15週: 写调查报告 学生の理解程度やHSK5級受験の状況によっては内容や進度を変更することがあります。 この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては一部の授業回または全ての授業回を遠隔へ変更する可能性があります。 | | | |
| 教科書・参考書等 毎回プリント配布 | | | |
| オフィスアワー 火曜日14:00～16:00 他の時間に希望する場合は随時相談してください。 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ グローバル人材育成香川大学ネクストプログラム(中国語コース)受講生は必ず受講すること。 | | | |